



平成28（2016）年度 事業報告書



明治神宮外苑大学クリテリウム
2017年3月12日
パラサイクリング・タンデムロードレース実施
三笠宮彬子女王殿下が大会をご観戦



インカレ 伊豆



JICF国際TRACK CUP



学生選手権 松本美鈴湖



創立80周年祝賀会 京王プラザ

1 はじめに

平成28年度（2016年度）に本連盟は創立80周年を迎え、10月に記念祝賀会が開催されました。また当年度に開催されたリオデジャネイロ五輪にはトラック・オムニウム男女、ロードレースに本連盟卒業生が参加し、活躍しました。

全日本大学対抗選手権自転車競技大会は伊豆市で実施され、伊豆ベロドローム、5kmサーキットは多くの観客と関係者で埋まりました

全日本学生ロードレース・カップ・シリーズは創設から12年目を迎え、最終戦（明治神宮大学クリテリウム）は日本国内初のパラサイクリングUCIポイント対象・公道使用タンDEM・ロードレースを実施し、また昨年に引き続き三笠宮彬子女王殿下のご臨席を賜るなど、一定の社会的評価を得ています。

全日本学生トラック・レース・シリーズも開催数を増やすとともに、参加資格取得のタイムレースと競技経験向上のポイントレース等のバランスをとり、トラック競技やロードレースにおけるスピード面での強化に貢献しています。また、本連盟主催UCIカレンダー登録トラック国際大会も開催され、競技内容の国際化を果たしつつ一定の社会的評価を得ています。

普及啓発活動においては、警視庁と連携した「モデルサイクリスト事業」の実施による交通安全プロモーションを前年に引き続いて推進したほか、改めて加盟校に安全走行に関する注意喚起を行って来ました。

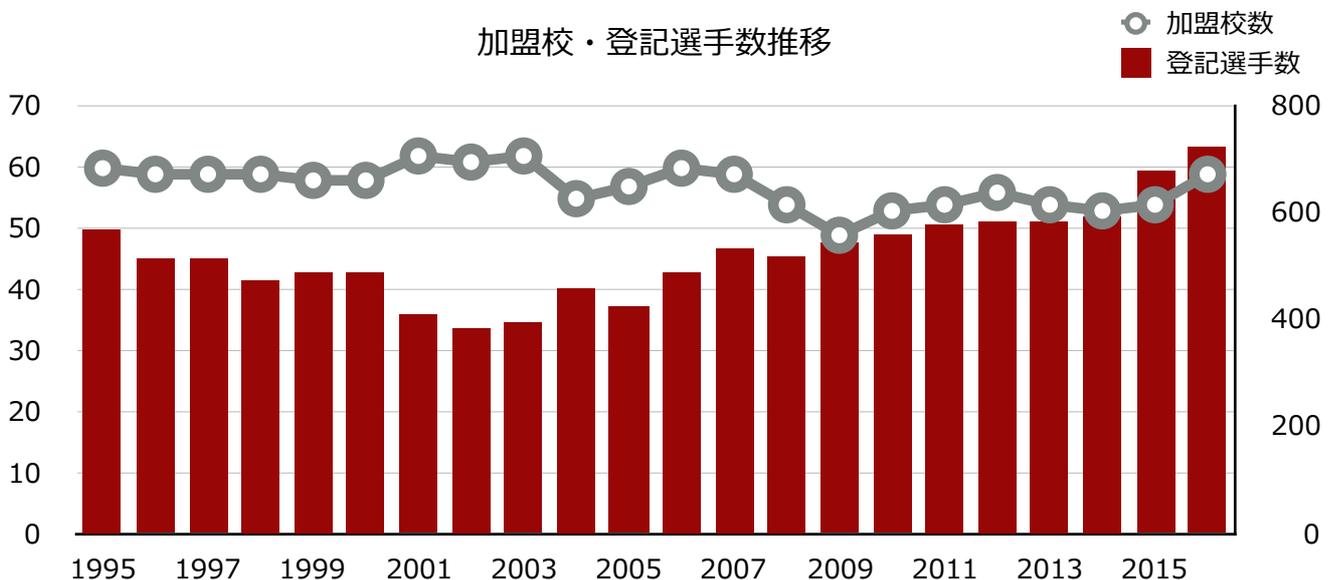
2 加盟校数・登録選手数等の推移

2016年度は加盟校数については、新規加盟と今年度未登録が拮抗し、横ばいとなりましたが、登録選手数は727名と前年対比49名・7ポイントの増加があり、過去最高記録更新となりました。近い将来に100校・1000名を目標としているところでありますが、引き続き加盟校・登録選手増加に向けた努力が必要であります。部員数の少ない加盟校が加盟を継続しやすくする施策（一定の指導・運営ノウハウの供与など）と、加盟校空白都道府県での新規加盟校発掘対策が必要と考えられます。

参考：JCF登録競技者数：7,983名(2016年3月)から8,411名(2017年3月)に増加しています。

西暦	平成	加盟校	男子登録選手	女子登録選手	登録選手計	評議員	賛助会員	審判登録者数
1995	7	60			570	264		140
1996	8	59			517	270		114
1997	9	59	479	38	517	261		
1998	10	59	441	34	475	270		
1999	11	58	461	31	492	278	83	135
2000	12	58	449	31	490		81	180
2001	13	62			412	317	85	176
2002	14	61			386	323	79	151
2003	15	62			397	323	110	148
2004	16	55	429	32	461	323	99	133
2005	17	57	395	33	428	323	76	144
2006	18	60	469	23	492	349	89	161
2007	19	59	505	33	538	351	88	154
2008	20	54	498	22	520	326	83	128
2009	21	49	521	25	546	328	77	125
2010	22	53	531	30	561	355	59	121
2011	23	54	552	30	582	354	63	92
2012	24	56	552	33	585	354	61	98
2013	25	54	555	31	586	357	66	90
2014	26	53	559	36	595	352	60	100
2015	27	54	643	35	678	352	82	123
2016	28	59	692	36	727	353	68	118

加盟校・登録選手数推移



東日本					西日本（静岡・長野・新潟以東）								
CODE	都道府県	学校名	加盟	男子	女子	計	CODE	都道府県	学校名	加盟	男子	女子	計
1	北海道	北見工業大学				0	16	富山					0
		札幌学院大学				0	17	石川	北陸大学	1	2	0	2
		北海道大学	1	7	0	7	18	福井					0
		室蘭工業大学				0	21	岐阜	朝日大学	1	51	1	52
		北海商科大学				0	23	愛知	星城大学				0
		北海道科学大学	1	2	0	2			愛知産業大学				0
2	青森	八戸大学				0			中京大学	1	6	2	8
		八戸工業大学				0	24	三重	名古屋産業大学	1	1	0	1
		八戸学院大学	1	2	2	4							0
3	岩手	富士大学	1	7	0	7	25	滋賀					0
4	宮城	東北学院大学	1	11	0	11	26	京都	京都大学	1	23	2	25
5	秋田					0			京都産業大学	1	13	0	13
6	山形	山形大学				0			同志社大学	1	14	0	14
		東北芸術工科大学				0			立命館大学	1	15	0	15
7	福島					0			龍谷大学	1	8	0	8
8	茨城	筑波大学	1	9	3	12	27	大阪	大阪大学	1	3	0	3
		流通経済大学	1	5	0	5			大阪経済大学	1	16	1	17
9	栃木	宇都宮大学				0			大阪工業大学	1	11	0	11
		作新学院大学	1	7	0	7			大阪産業大学	1	20	0	20
10	群馬	高崎経済大学	1	4	0	4			大阪市立大学	1	5	0	5
11	埼玉	獨協大学				0			大阪府立大学	1	4	0	4
		駿河台大学				0			追手門学院大学				0
		立正大学				0			関西大学	1	15	0	15
12	千葉	順天堂大学	1	21	3	24			摂南大学				0
		中央学院大学				0	28	兵庫	神戸大学	1	3	0	3
		明海大学				0			関西学院大学	1	6	0	6
		木更津工業専門学校	1	1	0	1	29	奈良					0
13	東京	学習院大学	1	4	2	6	30	和歌山					0
		慶應義塾大学	1	25	1	26	31	鳥取	鳥取大学				0
		駒澤大学	1	19	1	20	32	島根					0
		芝浦工業大学				0	33	岡山	岡山大学	1	6	0	6
		首都大学東京	1	12	1	13			環太平洋大学				0
		成蹊大学	1	3	0	3	34	広島					0
		大東文化大学	1	2	0	2	35	山口					0
		中央大学	1	17	0	17	36	徳島	徳島大学	1	1	0	1
		東京大学	1	18	0	18	37	香川					0
		東京工業大学	1	6	0	6	38	愛媛	松山大学				0
		東都医療大学				0			愛媛大学	1	2	1	3
		東洋大学	1	12	0	12	39	高知	高知工科大学				0
		二松学舎大学				0	40	福岡	福岡工業大学				0
		日本大学	1	53	0	53			久留米大学	1	2	0	2
		一橋大学	1	6	0	6	41	佐賀					0
		法政大学	1	28	0	28	42	長崎					0
		明治大学	1	17	0	17	43	熊本					0
		明治学院大学				0	44	大分	大分大学				0
		明星大学	1	18	0	18	45	宮崎	宮崎大学	1	6	0	6
		立教大学	1	12	0	12	46	鹿児島	鹿屋体育大学	1	19	7	26
		早稲田大学	1	14	2	16	47	沖縄	名桜大学				0
14	神奈川	東海大学	1	28	0	28			沖縄国際大学				0
		日本体育大学	1	21	5	26							
		神奈川工科大学	1	7	0	7							
		防衛大学校	1	5	0	5							
15	新潟	新潟大学	1	11	1	12							
19	山梨	山梨学院大学	1	8	0	8							
20	長野	信州大学	1	18	0	18							
		松本大学				0							
22	静岡					0							
東日本小計			35	440	21	461	西日本小計			24	252	14	266
全国合計										59	692	35	727
										校	男子	女子	合計

4 選手権大会の開催

- ・全日本大学対抗（インカレ）：

静岡県伊豆市・日本サイクルスポーツセンターでトラック・ロードレースを開催。日韓対抗代表選手選考会を兼ねました。総合成績は、男子・女子ともに鹿屋体育大学が優勝しました。近年の競技力向上の成果もあり、多くの大会新記録と学連新記録が達成され、近年の学生競技者の競技水準向上が感じられる大会となりました。

- ・全日本学生選手権個人ロードレース大会：

例年にならい長野県木曽郡木祖村 奥木曽湖・味噌川ダム周回コースにて男子181km、女子100kmで行われました。男子は鹿屋体育大学の徳田優選手が優勝。女子は筑波大学1年生の梶原悠未が優勝、OGの合田・榎木が参戦して2, 3位、慶應義塾の福田咲絵が4位と、新星・ベテランが奮闘しました。

男子は欧州派遣代表選考会のひとつとして位置づけられました。

- ・全日本学生選手権トラック大会：

長野県・松本市美鈴湖自転車競技場（屋外333m）で開催され、多くの大会新記録が達成されました。

- ・チームロード選手権：

前年に引き続き埼玉県加須市・羽生市の利根川河川敷にて開催されました。走路幅が狭い等の弱点があるものの、首都圏からのアクセスに優れ多くの観客・応援者がかけつけました。スタート・フィニッシュ地点は昨年引き続き「おおとね童謡のふるさと室」で、補給地点を折返し近傍に設置され、上位8チームには車輪サポート用オートバイの伴走が用意されました。鹿屋体育大学が優勝しました。

- ・個人ロードタイムトライアル選手権：

永年に亘り普及大会として行われてきた個人ロードタイムトライアルですが、世界選手権・オリンピックでも主要種目として位置づけられ、日本人は不得意とされているものの、素の実力を計り強化の基本となる種目であるという重要性に鑑み、選手権大会として位置づけられることとなりました。またタイムトライアルの特性として、オープン参加を取り入れても選手権者の決定に影響が出にくく、パラサイクリストなどへ門戸を開く方針で実施されています。

- ・全日本学生クリテリウム選手権：滋賀県東近江市で開催されました。

- ・東西学生選手権トラック：

東西共に2日間開催として開催されました。東日本は福島県泉崎サイクルスタジアムで、西日本は大阪・岸和田競輪場で開催されました。

5 強化・普及大会の開催

- ・全日本学生ロードレース・カップ・シリーズ

シリーズ戦は2005年度2戦を皮切りに現在は12戦程度が行われ、明治神宮外苑大学クリテリウムを最終戦とするスタイルが定着しています。各地の都道府県連盟と連携して企画され、学生競技者の大会参加機会増大・地域における自転車競技活性化の両面において一定の成果をあげ、選手権大会の参加資格を持たない選手にとっては参加資格を得る機会数の増大、すでに参加資格を持っている選手にとっては実戦レースに於ける技量の高揚の効果があり、近年の新規加盟校・新規登録選手の増大にも寄与していると考えられます。当年度は、「明治神宮外苑大学クリテリウム」が11回目を迎え、オーストラリア・メルボルン大学チームが参戦して積極的なレースが行われ、多くの観客の皆様がお越しになり、昨年が続いて三笠宮彬子女王殿下も観戦にお越し頂く光栄に浴しました。更に2020東京パラリンピックに向けた施策として、日本国内で初のパラサイクリングUCIポイント対象タンデム公道レースを実施しました。

東京臨海部における「湾岸クリテリウム」も東京都心部開催クリテリウムとして定着しました。シリーズ戦は基本的に競輪補助金に依存せず、参加料・一般企業協賛金・開催地地方公共団体の協力により運営するスタイルをすでに確立していますが、今後の補助金減少に左右されずに学生競技者の走る機会を確保する努力が引き続き必要と考えられます。

・ロードカテゴリ制

ロード選手のカテゴリを実力別にクラス1, 2, 3, に分類し、選手権大会の参加資格者が決まる制度も定着してきました。これにより、本戦参加時までのレース経験度が上がり、選手権大会の安全性・競技レベルが向上しつつあると考えられます。クラス2の層の厚みが増したため、選手権大会でのエントリー資格はクラス2に限られるようになりました。クラス3は実力差の幅が広がりつつあり、特に春先の飯山ラウンドなどにおいてスキルアップ講習などの対応を行っています。

・全日本学生トラック・レース・シリーズ

ポイントレースなど競走系種目の実戦経験レベル向上を目指して開始されたTRSも、参加資格取得のための記録会的性格も備えて参加者も増え、定着してきました。近年の選手権大会での大会新記録・学連新記録の続出に寄与して成果をあげていると考えられます。

6 国際大会の開催・参加

・本連盟が主管・主催者として実施してきた「寛仁メモリアルワールドグランプリ」は本年度からJICF主催「ジャパントラックカップ」にその称号を譲り、替わって本連盟主催UCIポイント対象トラック大会として2016年7月に長野県松本市で「JICF国際トラックカップ」を実施しました。UCIカレンダー登録クラス2の大会としてUCIポイントが獲得可能な大会で、トラックレースシリーズ最終戦と併行開催することにより、学生がUCIポイントを獲得するチャンスをより広く確保することに貢献しています。

・日韓学生対抗自転車競技大会が日本で開催されました。この形式での開催は今回が最後となり、大学はアジア大学選手権への参加、外苑クリテリウムへの招待、JICF国際トラックカップを通じて引き続き日韓学生の交流を図っています。

7 会議・事業運営

2016年度役員により運営されました。大会準備会合は毎週水曜日夜の定例会議を中心に進められました。日程に従い評議員会、理事会、委員会等を開催しました。

各大会の準備および当日の運営にあたっては、当番校からの学生委員も前年より多数の参加が得られるようになり、自分達ならびに後輩の走る機会を自ら確保する、という運営形態をより強固なものとしつつあります。本年度より、パルイズミ株式会社さまから運営用車両の貸与を受け、競技大会運営に使用させて頂いております。

8 むすび

加盟校数・登記選手数など裾野の拡大は、一進一退を経ながらもゆるやかに進行しており、当年度は過去最高の登記者数を記録しました。海外における大会での本連盟学生選手ならびに本連盟出身選手の活躍も活発化しつつあります。

シリーズ戦の地方開催など、自転車競技の普及発展にも一定の成果を上げ、それがインカレへの注目度の高まりにも貢献し、継続可能な体制に向けて事務局運営の見直し、学生委員・当番校制度の活性化が定着しております。多くの関係者が連盟運営にかかわりつつ、低コストで高度な運営が可能な体質獲得に向けて一層の努力を続けていくことが望まれところであります。

日本学生自転車競技連盟2016年度 最優秀選手

※トラック/ロード ランキング年間最上位者

男子	トラック	宮本 隼輔 (中央大学)	ロード	野本 空 (明治大学)
女子	トラック	橋本 優弥 (鹿屋体育大学)	ロード	福田 咲絵 (慶應義塾大学)

全日本学生ロードレースカップシリーズ総合： 野本 空 (明治大学)

日本学生自転車競技連盟
JAPAN INTERCOLLEGIATE CYCLING FEDERATION

東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館4階 〒150-8050
ホームページ : <http://jicf.info/>
電子メール : jicf@remus.dti.ne.jp